城山小学校　第８８７回　平和祈念式　令和７年７月９日・１０日

第８８７回７月の平和祈念式は、被爆の実相の継承と平和への願いを新たにすることをねらいとして、長崎市平和推進協会から平和案内人の方を招聘して、被爆体験講話を行いました。子供たちの学年の発達の段階に合わせ、低・中・高学年に分かれてお話をお聞きしました。

１・２年生【吉田明子さん・菅原真希さんのお話】

自作の紙芝居（文：吉田さん　絵：菅原さん）を２つ、見せてくださいました。
①　「先生、あのね」
②　「ひろちゃんとの約束」

今、世界では戦争をしている国があります。昔は日本も戦争をしていて、学校では、体育の授業で、人を殺すための訓練をしていました。夜は、星空を見ることができず、敵の飛行機から隠れて防空壕で過ごす日もたくさんありました。核兵器の数は、2022年で12720個、2023年で12520個、2024年で9500個。だんだんと減ってきてはいるけれど、これはうれしいことでしょうか。核兵器によって、たくさんの人が亡くなり、たくさんの人が悲しい思いをしています。私たちは、戦争をなくしていかなければなりません。

３・４年生【城臺美彌子さんのお話】

80年前、実験で原子爆弾１発を使った科学者は、「しまった」と思いました。これが人に使われたら、人類が滅亡してしまうと思ったからです。そんな爆弾を、使う国があったのです。その原爆に、長崎も被害を受けました。

「今日聞く人は、明日語る人」

80年前の私たちは、今、当たり前にできることができませんでした。
当時は、男の先生は戦争に行ったり、6年生が先生になったり、幼稚園児が小学生に交じって学習したり…。

今、みなさんがしていることが、「本当の平和」なのです。

５・６年生【三田村静子さんのお話】

講話の内容
①　自作の紙芝居
「あの子らの碑」
②　体験談

「『十人十色』というけれど、ここに集まる人はみな『十人一色』平和を願う青い色」
まず、この詩を紹介してくださいました。「あの子らの碑」は、原爆で尊い命を奪われた山里小学校の一人一人のあの子らのことが描かれています。子供たちが遊びまわっていた校庭で亡くなったわが子を焼かねばならないお母さんがたくさんいたこと。戦争さえなければなくならないでいい命がたくさんあったこと、決して戦争はしてはならないことがわかりました。

【三田村さんの願い】
・紙芝居を活用して、外国の方々にも原爆の恐ろしさを広げてほしい。
・永井隆博士のように、「如己愛人」自分を愛するように、周りの人も大事にしてほしい。

とにかく戦争はだめ！いいことは何一つない！命を奪い合ってどうするのか。